



震災体験談



白石市教育委員会生涯学習課文化財係
日下 和寿

文化財資料整理室で発掘資料の整理をしている時に地震が発生しました。避難所での夜勤対応で文化財の仕事はしばらく休みになりましたが、その合間を縫って、少しずつ市内の文化財被害を確認してまわりました。世良修蔵の墓、片倉家御廟所をはじめとする多くの石造物が倒壊し、市で保管していた出土遺物や古文書なども、一部破損していました。

震災の影響で取り壊す古い家には、旧城下町などの古文書など古いものがあります。自宅の蔵で保管していた古いものを処分してしまうのではと考え、市内全戸に保全を呼び掛けるチラシを配布し文化財レスキュー活動を開始しました。「うちには何もないと思うけど」と言っている家に行ってみるとすごい古文書があったり、「今から壊すのですぐ来て」という連絡で、間一髪で貴重な資料を救出したりしたケースもありました。

被災民家から約78件の情報が寄せられ、「白石古文書の会」「NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク」など、文化財レスキュー活動団体の協力で現地を訪問して歴史資料を調査し、数万点の資料を集めました。集まった資料をもとに文化財企画展「震災を越えて～白石市の文化財レスキュー～」も開催しました。

担当者として脈々と息づいてきた白石市の文化財の魅力を途絶させることなくアピールしていきたいと思っています。現在、東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学部門の協力を得て、目録作成も始めています。城下町ならではの貴重な財産として活用できる状態で残していきたいと思っています。

歴史 文化



8 歴史・文化を守る活動

本市は、片倉小十郎の城下町として歴史を資源にまちづくりをすすめています。市のシンボルである白石城や古典芸能伝承館の碧水園などの文化施設も大きな被害を受けました。

1 白石城の被害と復旧

ア. 被害内容

三階櫓と大手二ノ門の内外壁の漆喰がはがれ落ち、また、大きな亀裂が入るなどの大きな被害を受けました。さらに、屋根瓦

が落ちて破損する被害も受けました。石垣に被害はありませんでした。



イ. 復旧

①壁の補修

外観観察から大きな被害が確認された部分だけでなく、比較的被害が小さいと判断される部分も、土壁の内部は圧壊・剥離した状態であると推察できました。すべての破壊力所を撤去して、既存の壁土と同等の強度を有する土で補修しました。既存の壁は、表面の漆喰をすべて剥がし取り、内部土壁の健全性を回復した後に、再び漆喰塗りで復旧しました。

②瓦の補修

三階櫓石落しや付け櫓の切妻屋根の「掛巴瓦（かけともえがわら）」や壁との取り合い部の「水切鬘斗瓦（みずきりのしがわら）」や土塀の棟瓦（むねがわら）が落下し破損。破損した瓦はすべて交換しました。

③木軸組の補修

三階櫓、大手二ノ門・土塀の木軸組について、「楔（くさび）」や「栓（せん）」の全数点検と締め直しを実施しました。



白石城復旧工事のため 全国から寄付をいただきました

白石城は文化財に指定されておらず、また都市公園法に基づく施設や文化施設に該当しなかったために、当初は復旧工事に当たって国の補助金が利用できず、被害額およそ1億5,500万円を全額市の負担で行わなければならませんでした。こうしたことから平成23年7月、白石城の災害復旧財源の目的で寄付金の受付を開始しました。しかし、再三の働き掛けによって、平成24年3月27日、国の補正予算で財政措置（震災復興特別交付税）を受けられることが決定。協力いただいた白石城復興寄付金は、「白石城基金」として積み立てられ、活用方法を検討しています。皆様のご支援に心から感謝とお礼を申し上げます。

ウ. 復旧工事の見学会の実施

工事期間中に復旧工事の様子を見られる内部と外部見学会を開催しました。6,000名を超える方に被害の状況や復旧の様子、職人の技術を見学していただきました。

■開催期間

平成24年6月9日（土）～平成24年8月26日（日）

■見学会参加者

6月	3回	858名
7月	9回	1,343名
8月	19回	4,471名



2 碧水園の被害と復旧

建物全体が地盤沈下で沈み、茶室、庭園、能楽堂が損壊しましたが、平成25年1月にはすべての施設が通常通り使用できるようになりました。

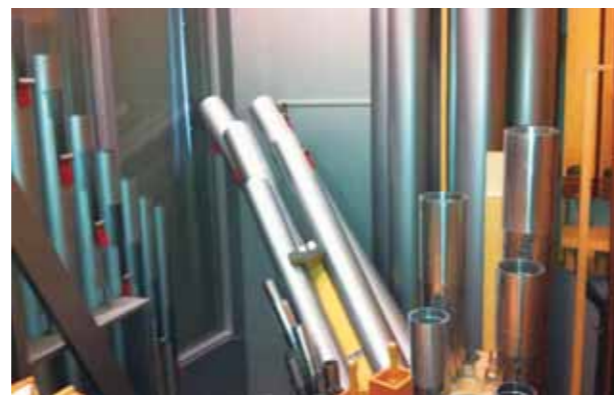


被害状況	能楽堂	棟瓦剥がれ、舞台柱、梁損傷、空調機配管破断など
	茶室	棟瓦落下破損、沈下による傾斜、内外土壁の剥がれ・崩落、建具・照明器具の破損など
	外構庭園	石塔倒壊、腰掛棟瓦落下破損、石垣の石落下、土留壁崩壊など
復旧工事期間	①平成23年12月27日～平成24年2月29日 ②平成24年5月21日～平成24年12月25日	
復旧工事概要	①能舞台と能楽堂内の電気・給排水設備の復旧工事 ②茶室・路地腰掛に関連する建築・設備と外構庭園の復旧工事	

3 ホワイトキューブの被害と復旧

震災後から平成23年3月22日まで一時避難所になり、部分的に休館しました。コンサートホール、リハーサル室、会議室は同年7月1日より一部再開。同年9月1日、アリーナとトレーニングルームが一般利用できるようになり、すべての施設が通常通り使用できるようになりました。

被害状況	屋外給排水配管、スライディングウォール、カーテンウォールガラス、パイプオルガン、屋根破損など
復旧工事期間	平成23年5月23日～平成25年3月22日
復旧工事概要	配管撤去・新設、スライディングウォールパーツ交換、カーテンウォールガラス新設、パイプオルガンパイプ補修、屋根雨漏り防止など



観世流小島英明さんが本市に寄付

平成23年6月11日、観世流能楽師の小島英明さんが本市を訪れ、碧水園能楽堂の復旧を支援するために集めた寄付金20万円を風間市長に手渡しました。碧水園で定期公演を始めて11年目となる平成23年は、同園開館20周年記念公演を予定していましたが、能楽堂が被災し開催を断念しました。



4 歴史資料の保全

歴史資料の保全を市民に呼び掛け

教育委員会博物館建設準備室は、震災前から市内の歴史資料の所在確認を進めていました。震災発生で歴史資料の散逸を防ぐために同準備室は、市内全戸に古い書類や手紙、書画、骨董品などの保全を呼び掛けました。

まず、「広報しろいし災害特別版」（平成23年3月30日発行）で「歴史を語り継ぐためにご協力ください」として古いものが見つかった場合の連絡を呼び掛け、その後、広報しろいし平成23年5月号に合わせ「歴史資料を捨てないでください」と、チラシを全戸に配布するなど繰り返し市民に呼び掛けました。その結果、被災民家から約78件の情報が寄せられました。市教育委員会が「白石古文書の会」「宮城歴史資料保全ネットワーク」など文化財レスキュー活動団体の協力で、現地訪問し、歴史資料を調査し、数万点の資料を集めることができました。



震災直後の古文書などの保全の動き

日付	動き
平成23年3月15日	宮城歴史資料保全ネットワークに保全活動の協力要請
3月23日	白石市文化財愛護友の会から協力を得、全会員にチラシを郵送し、情報提供を依頼
3月30日	「広報しろいし災害特別版」で歴史資料の保全を呼び掛ける
4月～	市民からの情報提供が増えてくる（平成23年度48件、平成24年度35件）
5月	「歴史資料を捨てないでください」というチラシを市内全戸に配布
5月18日	「歴史資料の保全にご協力ください」というチラシを市内全戸に回覧する
平成24年3月	文化財収蔵室の工事一部完了に伴い史料を運び込む
8月	市中央公民館で新潟大学と復興支援講座開催
平成25年1月	「震災を越えて～白石市の文化財レスキュー～」企画展を開催



震災に耐えた史料11点、企画展

震災で被災した市内の民家や土蔵から見つかった、江戸時代後期から昭和初期にかけての古文書などの歴史資料を集めた文化財企画展「震災を越えて～白石市の文化財レスキュー～」が、白石城歴史探訪ミュージアムで平成25年1月26日から3月3日まで開催されました。

展示されたのは、調査訪問で確認されて市に寄贈された歴史資料11点。白川内親地区の「肝入」を務めた民家の母屋屋根裏から見つかった、海岸防備強化の通達を写した1851年11月の「異国船防衛方御用留」や大平森合地区の民家の襖の下ばりから見つかった1895年4月12日の「白石町役場移転の報告書」など11点が展示されました。

